

## 社外取締役インタビュー

2015年6月より、上場会社に対してコーポレート・ガバナンス・コードが適用されました。当社は、このコードの趣旨を十分に踏まえたうえで、更なるコーポレート・ガバナンスの強化を図り、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指していきます。

その取組みの1つとして、当社は、2015年6月、それまで1名だった社外取締役を2名に増員し、経営に対する監督機能の強化を図っています。

社外取締役を務める渡辺、菊川の両氏に「当社に対する印象」および「自身が果たしていきたい役割」についてインタビューを実施しました。



社外取締役  
渡辺 顕好

### 九州電力に対する印象

社外取締役に就任して6年になりました。九州電力は、お客さまに質の良い電力を安定して供給することに対する使命感が大変強い会社で、また、九州地域のリーディングカンパニーとして、経済団体、奉仕団体等の団体や、ボランティア活動に積極的に人材や資金を投入し、地域の発展に大きく貢献してきました。

一方で、要した原価に一定の利益をのせて販売価格（電気料金）を決める、いわゆる総括原価方式での経営が長いため、経営の効率化、生産性の向上や原価改善への取組みの意識が他の民間企業に比べて希薄で、かつ経済や社会等の外部環境の変化の影響をあまり受けない安定した企業という印象を持ちました。

### 自身が果たしていきたい役割

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、九州電力を取り巻く環境は一変しました。原子力発電所の運転停止により、大変厳しい需給状況でかつ4期連続の赤字という危機的な状況となりました。この数年は、この危機を乗り越えるべく、全員で歯を食いしばって構造改革に取り組んでいます。この度、この苦しみをバネに、将来に向けてたくましく生き残っていくことができる強い会社を目指して、『日本一のエネルギーサービス』を提供する企業グループをありたい姿として掲げた「九州電力グループ中期経営方針」が策定されました。社外取締役として、この方針の実現に向け自動車会社での自らの経験を生かし、取締役会はもとより経営会議や経営層ワークショップにも出席し、積極的に意見を述べ前向きな提言をしたいと考えています。今後ますます競争が激化してくる中で、「真にお客さまの視点に立った施策か」という点に重点を置き多方向から助言し、勝ち残り、持続的に発展していくために尽力していきたいと考えています。



社外取締役  
菊川 律子

## 九州電力に対する印象

社外取締役への就任が決まり、早速玄海原子力発電所と松浦発電所を見学してきました。清掃が行き届き、すがすがしい現場でした。現在、電力業界は原子力発電の再稼働や来年度からの小売全面自由化に向けて大きな転換点にあると承知しています。このような環境において、所長から若い社員まで高い士気を維持されていることに感銘を受けました。また、先日は経営層ワークショップが開かれ、今後の経営戦略に向けた意見交換がなされるなど、トップから現場まで共通認識を持ち、一体となって改革に向かう最中であるとの印象を持ちました。

## 自身が果たしていきたい役割

私は福岡県や国での行政経験の後、九州大学や放送大学等で大学の経営に携わって参りました。この間、フルタイム勤務の傍ら出産、育児等を経験いたしました。先般九州電力の技術系の女性社員有志が作成した「配電女性社員のキャリアプランのために」という社内資料を読ませていただきました。仕事と家庭を両立する、あるいは、女性の視点や良さをどのように仕事の効率化につなげるか、過不足のないレポートがまとめられており、女性社員の基本的な能力の高さを認識できました。まだまだ少数派の彼女らを応援し、ライフイベントに配慮しながらダイバーシティ人材を育てていくことが、社員の働き甲斐や会社の業績向上につながるものと思います。九州電力では、社外取締役は経営会議にも出席しますので、女性や生活者の視点も踏まえ、率直に意見交換をし、「ずっと先まで、明るくしたい。」という「九州電力の思い」を具現化していく一助になりたいと考えています。